

# 中国戯曲舞踊の手の表現に関する考察 —京劇を中心に—

お茶の水女子大学 富 燦霞

## 【研究目的】

京劇は中国の代表的な戯曲であり、豊かな戯曲舞踊<sup>①</sup>の表現は、活かしている中国舞踊の保存の宝庫である。京劇における戯曲舞踊の表現は身体を分割し、各部位に多様な技法が創られ、技法を繋げるだけで人物が表現できる独特な方法をもっている。本研究は中国戯曲舞踊の表現における身体各部位の特徴や役割を探ることを目的として、頭部表現の考察<sup>②</sup>に続き、京劇の手の表現を舞踊の側面から考察し、『中国舞譜』<sup>③</sup>に整理された中国舞踊の手の表現と照らし合わせ、戯曲舞踊における手の表現の特徴及び役割を明らかにする。

## 【研究方法】

- 1 VTRフィルム<sup>④</sup>から京劇各役柄に共通する手の表現の特徴を明らかにする。
- 2 『中国舞譜』に分類されている手の表現技法「腕部動作」と「臂部動作」を文献より考察し特徴を明らかにする。
- 3 1と2の結果から戯曲舞踊における手の表現の役割を明らかにする。

## 【結果及び考察】

1 手の表現を部位と全体の動きの両側面から考察を行った。部位の動きにおいて関連する身体部位は上腕、前腕、手関節、指の4つに分け、全体の動きにおいては断続的な動き、流れる動き、ポーズの3つに分けてVTRフィルムを観察した。その結果京劇各役柄に共通する手の表現は文役と武役に分類できる。文役は歌やセリフの表現が、武役は武術や殺陣等曲芸的技巧を用いた表現が中心となっている。手の表現の特徴は表1のようにまとめられる。

表1 「手の表現の特徴」

		文	武
部位の動き	上腕	体から大きく離すことがほとんどない。動きが緩やかで少ない。	体から大きく離すことが多く、頻繁に動く。瞬時に力強く振り止めることがよくある。
	前腕	体に近づいていることが多い。緩やかな動きが多い。	可動範囲を頻繁に動き回す。瞬時に力強く振り止めることがよくある。
	手関節	手首の屈伸が緩やかであり、掌の屈伸は顕著ではない。	手首は力強く頻繁に屈曲、掌の屈伸や外向きが多く特に男性役は大きく開くことが顕著である。
	指	指の屈伸は多く、緩やかである。女性役は指系系の動作が多い。男性役は蘭花指や蝶姿式系を主とする。	指の屈伸の変化が素早く、頻繁に行われる。男性役は張手式や指系系の動作が多い。女性役は蘭花指、蝶姿式、握拳式、張手式系を主とする。
全体の動き	断続的な動き	歌やセリフが中心となる動きが控えめで、身分と心情に合った表現。	歌やセリフが中心となる動きは文役と共通である。亮相による断続も顕著である。
	流れる動き	圓や曲線を描くことや指をさす動作が多く見られ、緩やかで温和な動きが多い。	圓や曲線を描くことや指をさす動作が多い。派手で力強い武勇的な動きを主とする。
	ポーズ	男女、身分を区別。体につけるか近づき、温和で均衡のとれた姿を主とする。	男女、身分を区別。体から大きく離し、力強い武勇的な姿を主とする。

文・武役ともに男女の手の表現ははっきりと決められており、動きが圓や曲線を描くのが共通の特徴。文役は控えめな動作、武役は力強く激しい動作を主とする。このことから手の表現は役柄の人物像を強調するためにあると思われる。また手の表現は歌やセリフの有無に左右され、断続的な動作や指をさす動作が頻繁にみられることから心情表現を補強する表現であるといえる。

2 『中国舞譜』に整理されている手の表現技法は指、手首のポジションや動作と小道具の持ち方を中心とする「腕部動作」と、うでのポジションや動きを中心とする「臂部動作」に分けられている。技法用語における中日の対照及び技法数、主な技法内容を表2にまとめた。

表2 「『中国舞譜』—腕部」と「臂部」動作の技法、技法数、主な内容」

中国語（日本語）[小計] (技法数)	主な内容
腕部動作（手の動作） [127]	指、手首の動作と小道具の持ち方
腕手動作（手首中心の動作） (26)	両手首または手やうでの技法
手指姿式（指の動作） (40)	指のポジションや動作
持物姿式（小道具の持ち方） (24)	小道具の持ち方のポジション
指式動作（指さし動作）	身体の動きを伴う指で指す技法
└ 外指（外指）・自指（自指） (37)	人物や事物・自分の身体を指し示す
臂部動作（うでの動作） [31]	うでのポジションや動きの技法
臂之基本姿式（うでの基本ポジション） (7)	うでの基本ポジション
基本姿式之変化動作（基本ポジションの変形）	うでの基本ポジションの変形
└ 均衡（均衡）・対照（対照） (14)	シンメトリー・コントラスト
臂部舞式動作—うでの技法 (10)	うでを中心とする技法

動作説明から次のように考察できる。①若干の変化によって特定の人物を表す技法は158の中117あり、人物像の描写を協調する役割を示している。②「腕部動作」127の中失意や賛成などの心情を表す技法はトータルして32を占めていることから心情を表現する補助的な役割を示している。③「臂部動作」は基本と変化のポジションには表現的特徴が見られない。うでの10技法は武術から取り入れたものや武術を表現する力強い動きが7技法を占めていることから武勇の美を表現するのに欠かせない。また「指式動作」37技法はうでが手の動作を強調する補助的な役割を示している。3 以上の結果から戯曲舞踊における手の表現の役割として具体的に次の3つがあげられる。(1)手の表現は、役柄の性別や身分を区別し、人物像の描写は強調する重要な役割をもっている。(2)手先の動作は、歌やセリフに左右される断続的な動作と指をさす動作が多く、直接心情を表す技法が少数であることは心情表現を補助する役割にある。(3)うでの動作は、武勇美に不可欠な表現である他、手先の表現を強調するためにも使われ、手先は主、うでは補助的な役割である。

【註】① dance in Chinese Opera ②富燦霞、中国舞踊の頭部表現に関する一考察—京劇の演劇舞踊を中心として、舞踊学20号、1997③李天民、『中国舞譜』台北國立編譯館、1976④認識國劇—一生旦淨丑役編、扮装編、貴妃醉酒、台湾公共電視製作⑤天女散花、中国録音録像総社